



## AGE Committee in Johannesburg 出席報告 (AGE : 飛行場環境)

9月24日から3日間、南アフリカ共和国のヨハネスブルグで IFALPA AGE Committee が開催されました。今回は飛行場環境の整備がまだまだ十分でないアフリカ諸国の Pilot やボーイングのテストパイロット、また鳥レーダーの大手メーカー等も含め総勢25名が参加して、大変有意義な議論が行われました。ここでその一部をご紹介します。

### ALR 活動の活性化 (ALR : Airport Liaison Representative)

今回はフランスのシャルルドゴール空港、モロッコのカサブランカ空港での安全に対する取り組みが紹介されました。空港をより安全で、全ての User にとって効率的なものにするには **現場で働く人の生の意見を取り込むことが必須**です。Pilot の視点からでしか解り得ない部分も多くあることから、Pilot の意見も決して欠くことはできません。空港のレイアウトに始まり、誘導路名称、鳥衝突防止への取り組み、適切なサインボードの設置や灯火類など、議論する内容は多岐にわたります。今後のより一層の活性化に向けて、活発な情報共有や意見交換が行われました。

### 新素材を多用した B787 や、バイオ燃料を使用した航空機に対する消火活動

これらは ICAO Rescue and Fire Fighting Working Group で議論されている内容です。B787 の消火活動に関して、Boeing は **“消火の際に有害なガスが発生する事は無く、その他、従来の消火活動に特別加えないといけない内容は無い”**と結論付けています。また、バイオ燃料を搭載した航空機への消火に関しては既に米国で研究が進んでいます。一概にバイオ燃料と言っても様々な成分構成をしていることから、大変難しい議論になっています。

### RWSL について (RWSL : Runway Status Lights)

RWSL は、ここ数年 AGE Committee での大きなテーマの1つです。現時点で ICAO Annex14 には RWSL の定義はなく、FAA に定義があるのみです。それゆえ、様々な国や空港において、独自のシステムが導入されてしまうと、**空港毎に異なった運用、また視覚情報が提供されることになって、Pilot が困惑してしまう可能性があります**。今回の会議で、ALPA Japan から羽田で運用が開始された VMS : Variable Message Sign を紹介しました。今後、羽田空港へ新規就航する外国航空会社が増大することが予想されることもあり、引き続き ALPA Japan は IFALPA と共に早期の ICAO Annex の策定に取り組んでいきます。

### 鳥レーダーについて

鳥レーダーは以前から軍用に開発され、最近では民間空港にも広がってきています。日本でも昨年、羽田空港において鳥レーダーを設置、現在はテスト段階と報じられています。民間用に開発しているメーカーは主に3社あり、今回は ACCIPITER というメーカーの技術者から最新情報の報告がありました。重要な論点は **「レーダーからどんな注意情報が出されても、最終的な判断は PIC に委ねるべき」**、「Wind Shear の様に機上システムとリンクしている設備とは異なるため、どのように最新情報を的確に提供し、そして実運航に取り込むか」というものです。後者は特に重要で、鳥注意情報が出されている中、PIC の判断で進入を継続した結果、1 ENG 損傷となってしまった場合の責任の所在など、様々な内容に影響します。

ALPA Japan としても羽田空港を含む鳥レーダーを今後、注視していく必要があります。

新機種の就航や鳥レーダーの様な新しいシステムの導入など、飛行場やその周辺の環境は日々変化しています。今後も AGE 委員会は様々な情報を発信すると同時に、国内空港に関する現場の生の声に耳を傾けて活動していきます！

以上

